

催されて

幼少の頃、インフルエンザに罹り高熱が出ると、決まって《氷枕》が用意されていた。

— 熱が上がるのは、身体が病気をやっつけるためだから大丈夫 —
としつつも、カチコチの《氷枕》で解熱処置をするのは一見矛盾する。

だがどうか。

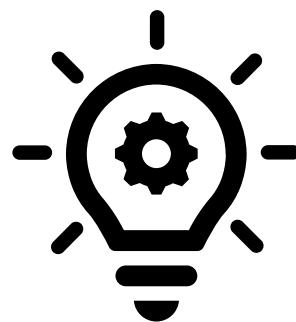
まさにいま面前に、発熱でうなされている姿があるならば、
次の1コマは自ずと、定まってくるだろう。

いかなる理屈も そこには介在しないはずだ。

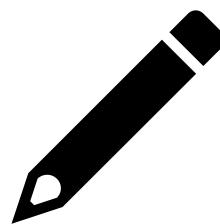
vol.41

和而不同

向日葵もうだるほどの酷暑。首元に装着する冷感リングは、今や公私問わず必需品だ。―お寺さんの格好はヒラヒラしてて、涼しそう
で良いですねー―内外―は往々にして不相応、これが現実である▼
ヒトの身体は、産熱と放熱によって保たれているそう。しかし、ひとたびこのバランスが崩れると、いわゆる熱中症が起ころ。循環は何事においても肝要であり、かつそれは適切さを備えておくものでありたい▼冷房のよく効いた部屋は、言い換えれば“脱換気”でもある。それも一要因なのか、新型コロナ罹患者数が軒並み増加傾向にあるようだ。『彼方立てれば此方が立たぬ』とはまさにこのことであろう▼気温が体温を超えてしまうことがザラになった昨今の夏。《異常気象が日常化する》という、如何ともしがたい背反感が漂う。とはいえ現況の許容が求められる一方、変化に対する感性はいかなるときも潤いをキープしておきたい▼気づけば風鈴の響きも、この所音沙汰なしである。蝉の合唱団が活動を休止する日中、放たれる静けさはどこか不気味だ。だが、そんな情景にも慣れてしまった。風物詩とは、いつまでもそこにあるわけではないのだ。『甲子園』が八月を去る、そんな日も訪れるのだろうか。



きっかけ感話
【超短編】



若院コラム

人生の良し悪しを裁くルールなんかないのに
常識だ格式だはみ出せばタッチアウトだと雁字搦めの毎日
だからお手本通り言う通りお利口なフリをして
空気読んで言葉飲んだ自分じゃない自分がうずき出してきたんなら
前へ 前へ . . .

高橋優
『虹』

— 2017『熱闘甲子園』テーマソング —



WASHITE DOUZEZU

【開花速報】
境内ひまわり花壇

